

雜載

ならんには、幾箇とこそいはめ、石なご握りてもするもの故なごといひもなるべし、勘物御伽雙紙に、十にたらずといふ法あり、略中是なごより出たる兒戲なるべし、又小兒兩手の指を組合せて、何の指にても一ツ掌の内に藏して、中さすることあり、是もなごを學びたるもの歟、
〔法然上人行狀畫圖 四十六〕なんご圖



〔好色一代男五〕命捨て、の光物

よい年をして螺まはし、扇引なんご呼びて自と子供心になりて立噪ぎ、

〔扶桑集〕重酬

野人閑散立身何、自課功夫文字魔、蹇歩更教吹退、鷓鴣醜嘯還被敵、横波水中投物浮沈異、手裏藏鈎得

野相公野○小 野董